

2022 年度「国際交流支援室」事業報告

安保 英勇
国際交流支援室 室長

1. 国際交流支援室

本年度のスタッフは、先端教育研究実践センター長（小嶋秀樹教授）、国際交流支援室長（安保英勇准教授）、室員（劉靖准教授、尹得霞助教、閔琬新助教）である。

2. 今年度の活動（2023 年 2 月現在）

(1) 会議

- ① 文系四研究科共通国際交流オアシス事業実施委員会（1 回/年;尹得霞助教出席）
- ② 全学国際交流委員会（開催なし）

(2) 部局間学術交流協定および大学間学術交流協定の維持管理

本年度は、4 件の部局間学術交流協定（国立政治大学教育学院、杭州師範大学経亨頤教育学院、インドネシア教育大学、UNESCO バンコク事務所）の更新を行った。また、国際交流実績に基づき学術交流協定の運用について見直し作業を行った。

(3) 学術交流協定に基づく交換留学生の派遣と受入れ

南開大学日本研究院 1 名（受入れ教員：井本准教授、期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月）

(4) 外国人留学生の受入れと支援（詳細は別頁参照）

留学生の受入れ及び学生生活支援を特化した業務であり、主な内容は、1) 研究希望者の学力・研究能力の調査、2) 日本語会話能力等の面談（インターネットを活用した映像面接）、3) 研究計画書の作成に対する助言、4) 希望する教員の研究分野等の説明、5) 当該教員への報告・相談、6) 入学後の相談・サポート等であり、留学生に関わる全ての業務窓口として対応してきた。本業務は旧教育情報学研究部・教育部において 2015 年 4 月から開始した業務であり、2018 年 4 月に教育学研究科との統合後も継続して実施している。

今年度は、教育情報アセスメントコース、教育政策科学コース、グローバル共生教育論コース、教育心理学コース、生涯教育科学コースの研究生入学志願者の 43 名を対象に、研究生受け入れの支援と入学調査を行った。

また、留学生の留学生活と就職活動をよりよく支援するために、本研究科を修了した元留学生 3 名を招き、進路相談に関する懇談会を開催した。

(5) 国際シンポジウム、講演会

グローバル社会は、デジタル技術、気候変動、民主主義の後退、社会的格差、それらが教育や私たちの社会に及ぼす影響によって引き起こされる未曾有の危機に直面している。これらの危機を対処するため、2021年、ユネスコは「Reimagining Our Futures Together」と題する報告書を発表した。報告書は平和で、公正で、持続可能な未来を構築するためには、教育そのものが変容される必要があると述べた。また、報告書では、教育を含む地球規模の課題を解決するため、2050年に向けて、社会契約としての教育について、我々は以下の本質的な三つの質問を問い直す必要がある。わたしたちは何を続けるべきか、何を止めるべきか、何を再構築すべきかを決定するプロセスを再確認すべきであると指摘されている。令和4年度の国際シンポジウム企画の主な目的は、日本を含むアジア太平洋地域における「教育の新たな社会契約」を作り出すために、社会対話による「誰一人取り残さない教育」の変容の在り方を探求することである。令和4年度東北大学大学院教育学研究科「アジア太平洋地域における「教育の新たな社会契約」の再構想」に関する対話シリーズを4回にわたり開催した。

① 2022年11月26日

国際学術ウェビナーシリーズ1（参加者人数：累計52人）

Higher Education for A Just and Sustainable World 1: Transforming teaching and learning

発表者：

- Dr. Zhiyong Zhu, Faculty of Education, Beijing Normal University
Dr. Zhou Zhong Institute of Education, Tsinghua University
- Mr. Adrian Man Ho Lam, Research Group Member, Guest Lecturer, and Course Tutor for the Common Core at the University of Hong Kong
- Dr. Sadaf Taimer, Graduate Program in Sustainability Science, Global Leadership Initiative (GPSS-GLI), University of Tokyo

討論者：

- Dr. Zhou Zhong, Institute of Education, Tsinghua University; Graduate School of Education, Tohoku University
- Dr. Roger Yap Chao Jr., Assistant Director, Education, Youth & Sport Division, ASEAN Socio-Cultural Community Department

本ウェビナーでは、中国、香港、日本から 3 名の研究者を迎え、高等教育機関における教育と学習の変革に関する研究と見識を共有した。北京師範大学教育学部教授の Zhiyong Zhu 氏は、中国における持続可能な開発のための教育の政策と実践に関して、国家政策分析と北京師範大学の事例を発表した。続いて、Adrian Lam 氏は、香港大学において、全学横断的な一般教育を通じて、持続可能性の問題をコアに統合し、実践してきた経験を紹介した。3 人目の発表者である Sadaf Taimer 氏は、東京大学大学院グローバルリーダー教育院サステナビリティ学プログラムの研究員として、デザイン思考教育法の変革の試みについてを発表した。

② 2022 年 12 月 17 日

国際学術ウェビナーシリーズ 2（参加者人数：累計 106 人）

Higher Education for A Just and Sustainable World 2: Transforming teaching and learning in the Asia-Pacific Region

発表者：

- Dr. Libing Wang, Chief of Section for Educational Innovation and Skills Development (EISD), UNESCO Asia and Pacific Regional Bureau for Education
- Dr. Jae Park, The Education University of Hong Kong
- Dr. Tamara Savelyeva, The Hong Kong Institute of Education for Sustainable Development, Hong Kong SAR
- Dr. Zhou Zhong, Institute of Education, Tsinghua University; Graduate School of Education, Tohoku University
- Dr. Sandra Woollorton, University of Notre Dame Australia

討論者：

- Dr. Yuto Kitamura, Graduate School of Education, The University of Tokyo
- Dr. Wesley R. Teter, UNESCO Asia and Pacific Regional Bureau for Education, Collaborative Researcher, Center for Advanced School Education and Evidence-Based Research, The University of Tokyo

本ウェビナーでは、冒頭、佐々木理事・副学長（共創戦略・復興新生担当）、グリーン未来創造機構長から当該テーマにおける本学の取り組みについて説明があり、続いてユネスコ・バンコク事務所（アジア太平洋地域を所管）の Libing Wang 氏による基調講演が行われた。Wang 氏からは持続可能な開発のための高等教育の背景・理念・動向が解説され、その変容に必要な包括的アプローチとパートナーシップの構築がいま必要とされている旨が強調された。それに続く招待講演で

は、香港教育大学の Jae Park 氏、香港持続可能発展教育学院（ユネスコ関連機関）の Tamara Savelyeva 氏、中国清華大学の Zhou Zhong 氏、ノートルダム大学オーストラリアの Sandra Wooltorton 氏らから、各地における持続可能な世界に向けた高等教育に関する事例報告があり、学習者における価値変容に向けた取り組みや、学修成果を具体的な社会実装につなげる試み、歴史文化的な差別や格差の解消に向けた教育実践などの話題が提供された。加えて、東京大学の北村友人氏とユネスコの Wesley Teter 氏を交えてのパネル討論およびフロアとの質疑応答では、これら講演内容を踏まえて、アジア太平洋地域の高等教育が今後向かうべき方向が議論された。

③ 2023年2月18日

国際学術ウェビナーシリーズ3（参加者人数：累計43人）

Education and Caring for the Well-being of Youth in East Asia: Current issues, concerns and prospect

発表者：

- Dr. Chen Chen, School of Psychology, Nanjing Normal University
- Dr. Sang Min Lee, Department of Education, Kora University
- Dr. Shunta Maeda, Graduate School of Education, Tohoku University

本ウェビナーでは、中国、韓国、日本から心理学と教育学の研究者3名を迎え、東アジアの若者の幸福のための教育やケアに関する現在の問題、懸念、展望を共有した。青少年の心の健康を促進し、脆弱な青少年を保護し、最大の困難に直面している若者をケアするための可能性について意見交換を行った。

④ 2023年3月4日

国際学術ウェビナーシリーズ4（参加者人数：累計15人）

The Future Strengths of Young Researchers in Education : What are we doing? What will we do?

- Dr. Tengteng Zhuang, Faculty of Education, Beijing Normal University
- Dr. Jijian Lu, Jinghengyi College of Education, Hangzhou Normal University
- Dr. Chen Chen, Institute of Advanced Studies in Humanities and Social Sciences, Beijing Normal University
- Dr. Lei Cao, Graduate School of Education, Tohoku University

University

- Ms. Yuanxin Li, School of Education Science, Nanjing Normal University
- Dr. Wanxin Yan, Graduate School of Education, Tohoku University

本ウェビナーでは、アジア太平洋地域からの若手研究者が、現在進行中または提案中の研究テーマについて有意義な見識を共有した。アジア太平洋地域の文脈で起きている教育の変化や課題を認識し、アジア太平洋地域における教育の将来的な可能性についての議論を通じて、若手研究者間の交流の在り方について、意見交換を行った。

⑤ その他

- 2022 年 8 月 29 日に 8 月 29 日、2020 年のパンデミック発生後初の海外大学からのゲストとして、国立政治大学（NCCU）教育学院副院長・教授の Jungcheng Chen 氏を迎えた。訪問中、教育学研究科長の野口和人教授、副研究科長の小島秀樹教授、国際交流室長の安保英勇准教授が研究科長室で Chen 教授と面会し、大学院の国際化の進展やアジア教育リーダーコースについて意見交換を行った。本学の学術交流の一環として、2022 年 8 月 28 日～9 月 1 日、Chen 先生を非常勤講師として招聘し、対面で「国際教育論 II」の連続講義を担当していただいた。国際比較教育学に関する諸問題について、本学の大学院生との学術交流も行った。
- 2022 年 11 月 22 日に台湾師範大学劉祥麟先生は教育学研究科を訪問した。本研究科と学術交流協定を締結している国立台湾師範大学の劉祥麟先生が本研究科を来訪され、小嶋副研究科長ほか 2 名と懇談した。
- 2022 年 11 月 24 日にユネスコバンコク事務所でインターン中の大学院生とのオンライン交流会を開催した。交流会では、ユネスコバンコク事務所インターン中の大学院生 Wen Ningxi さんより、ユネスコバンコク事務所インターンの仕事内容、インターン参加の感想を報告した。報告内容を踏まえて、小嶋副研究科長・指導教員の渡部准教授・グローバル共生教育論コースの劉准教授・曹助教から、ユネスコバンコク事務所インターンで得られた知識と能力について、Wen さんと意見交換を行った。また、交流会に参加した 5 名の大学院生から、インターンシップ申請の段取りや現地での生活などについての質問応答もあった。参加した教員たちからは、ユネスコバンコク事務所インターンのような国際機関での実践・体験を通して、

研究科・学部の学生たちの国際力がより身に着くことを期待していることが述べられた。

- 2022年12月17日にユネスコ・アジア太平洋教育局の Libing Wang 博士は研究科の執行部と研究科長室で会談を行った。Wang 博士が過去3年間の両機関にける学術交流の実績をレビューし、両機関の研究・教育面での今後の協力の可能性について話し合った。
- 2022年12月18日には「未来の教育とユネスコ」をテーマとした若者中心の交流会を開催し、東北大学の学生10名に加え、宮城第一高校の生徒10名の参加を得た。Wang 博士による話題提供とファシリテーションの下、参加者は「未来の教育とユネスコの役割」と「国際機関でのキャリア形成」という2つのテーマについて討論した。大学生からは「専門家との対面交流から、未来の教育とユネスコの役割に対する理解を深めることができた。」という感想を得た。高校生からは「Wang 先生には私の質問を丁寧に理解しようとしていただき、心に響くアドバイスも頂戴した。包摂的教育というキーワードが私の心に残った。」「早期出産のために教育を受けられない女性へのユネスコの支援について、Wang 先生に直接質問をすることができ、詳しく答えていただいた。大学生の皆さんの流暢な英語に触れたことも収穫だった。これからも学びを継続していきたい。」という感想を得た。
- 2022年12月18日には、東北大学大学院教育学研究科と日本比較教育学会国際交流委員会が共同主催した公開講座「比較教育学に関する論文の国際ジャーナルへの投稿」が開催された。対面5名とオンライン17名、合計22名の研究者及び大学院生が参加した。香港教育大学の Jae Park 先生は講演者として、若い研究者のために、研究デザイン、国際ジャーナルへの投稿のプロセス及び考慮すべき点をご紹介いただいた。また、講演後には質疑応答の時間を設けて、Jae Park 先生と比較教育学の論文発表に關しての意見交換を行った。

(6) 国際交流支援室のウェブサイトの運用

教育学部・教育学研究科の国際交流に関する情報をより広く周知するため、2021年3月より国際交流支援室のウェブサイトの運用を開始した。現時点では、主に AEL Course、日本語学習支援事業、留学生の受け入れ、部局間学術交流協定などの情報を掲載している。